

令和3年度 日之影町立宮水小学校 学校評価

○「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。

4：期待以上、3：期待通り、2：やや期待を下回る、1：改善が必要

○「評価者」…「第一次」：学校による自己評価、「第二次」：保護者評価、「第三次」：教育懇話会委員評価

評価項目	達成目標と方策		第一次評価者所見	評価		
				第一次	第二次	第三次
学力向上	1	学習の基盤となる学習態度等の指導を日常的に徹底し、基本的な学習習慣の確立を図る。	手をまっすぐ上げる、「はい」の返事をする、体を向けて聞く、聞こえる声で話す等の指導を行った。子ども達に意識している姿は見られるようにはなったが、十分ではない。	3	3	3
	2	ICT(タブレット等)の活用を通して、主体的・対話的で深い学びの授業改善に取り組み、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	タブレットPCによるICTの活用を積極的に行うことができた。思考や表現の場面での活用をすすめることで、積極的に思考し表現する姿が見られるようになった。	3	2	3
	3	朝の活動の活用や家庭学習の充実をさせ、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る。	モジュールの活用、家庭学習の工夫により、基礎的・基本的な知識・技能の習得がなされ、国語・算数の各単元テストで概ね90%以上の平均を達成することができた。	3	3	3
	4	地域の人的・物的教育資源を有効活用しながら読書活動を推進し、思考力や読解力の向上を図る。	町図書館の利用や町図書活動推進員の活用、地域ボランティアによる読み聞かせ活動、図書委員による読書推進の取組により、児童の読書活動が充実し、読書冊数も増加した。	3	3	3
生徒指導	1	日常の指導を充実させ、基本的な生活習慣の確立を図る。・あいさつ(会釈)・無言掃除・廊下歩行・靴の整頓	あいさつについては、生活指導週間や常時指導、児童会を中心としたあいさつ運動の実施により、意識の高まりは見られるものの個人差があり、今後も継続的な指導が必要である。	3	3	3
	2	学級経営や教育相談の充実を通して、望ましい人間関係の醸成を図る。(いじめ・不登校への対応)	楽しい学校を目指し、授業を中心とした学校生活の充実を図ることができた。また、悩みアンケート・教育相談の実施により、児童の悩みを早期に発見し、対処することができた。	3	3	3
	3	児童会活動や学校行事を通して主体的に活動できる力を育成する。	委員会活動や代表委員会において、児童がよりよい学校をめざして取り組む姿が見られた。ボランティア活動、運動会等の各行事などでも主体的に取り組む姿が見られた。	3	4	3
	4	いのちを大切にする教育の充実を図り、豊かな心を育む。	学校参観日に「いのちの教育」を実施することで、学校と家庭で「いのち」について考える機会となった。今後も命の大切さについて指導を継続していく。	3	4	3
体力向上、安全指導	1	主体的・対話的で深い学びのある体育科学習を充実させ、体力の向上を図る。	各学級での体育科学習において、運動の楽しさを味わわせるとともに、対話を取り入れることで主体的に学習をすすめることができた。	3	3	3
	2	体力向上プランを基に、意図的・計画的な体育タイムの充実を通して、体力の向上を図る。	体力テストの結果をもとに体力向上プランの見直しを行った。体育的行事と関連して持久走やなわとび運動に取り組んだが、体力に学年差がある。	3	3	3
	3	養護教諭や栄養教諭と連携した日常指導等を行い、健康的な生活習慣や望ましい食習慣を育成する。	養護教諭や栄養教諭が積極的に授業を行い、児童の食や健康についての意識を高めることができた。また、児童の実態調査の結果をもとに個別に指導を行うことができた。	3	3	3
	4	日常的に立腰指導の徹底を図り、正しい姿勢の習慣化を図る。	学習場面では立腰ができるようになってきているが、日常の場面や家庭では立腰の意識を持つことができていない。家庭との連携を含め、意識を高める指導を繰り返す必要がある。	3	2	3
家庭・地域との連携	1	地域の人的・物的教育資源を活用した学習の充実を図る。(地域学校協働活動推進員との連携)	本年度より設置された地域学校協働本部により、地域学校協働活動推進員から大きな協力を得て地域資源の活用ができた。今後も更に地域資源の活用を推進していく。	3	3	3
	2	めざす児童像や各月の重点指導目標を家庭と共有し、連携した取組で目標達成を目指す。	めざす児童像に関わる児童の様子を校長通信等で保護者に知らせるとともに、重点努力事項について家庭と連携して取り組むことができた。	3	3	3
	3	家庭の教育力を向上させるための全校懇談会の充実を図る。	全校懇談は実施できなかったが、会で予定していた「メディアとの付き合い方」について、アウトメディア週間、学校保健委員会、町PTA連絡協議会等の取組と連携することができた。	—	—	—
	4	学校ホームページや学校通信等により、積極的に情報発信を行う。	週に一回程度の校長通信、毎日のホームページの更新により、積極的に学校の様子を家庭に伝えることができた。保護者の学校の教育活動への関心・理解も高い。	4	3	3